

自動運転社会実装推進事業

- ドライバー不足・地域モビリティの確保等の問題を抱える中、**自動運転技術を有するゲームチェンジャーが、「地域の足」を支える主体として発展することが期待**されており、**自動運転移動サービスについて、2025年度目途に50か所程度、2027年度までに100か所以上の地域で実現**という政府目標を掲げている(※)。
- R3補正においては4事業に集中的な支援を実施し、R4補正においては、62事業を支援したところ。**R5補正・R6当初も引き続き、地方公共団体が地域づくりの一環として行うバス・タクシーサービス等へ、自動運転の活用と持続可能性に関する実証事業として支援。**

(※) 出典 デジタル田園都市国家構想総合戦略（令和4年12月23日 閣議決定）

＜対象事業者＞

地方公共団体（市町村）及び道路運送事業者等

※将来的に「レベル4」の自動運転移動サービスの実現が見込まれる者であること。

○実証のポイント

- ・自動運転による地域モビリティの構築、及び社会受容性の向上
- ・地域に根ざした自動運転の通年運行
- ・レベル4の実現に向け、運転者が不在となることを前提とした技術の磨き上げ

＜補助対象経費＞

- ・車両改造費
- ・自動運転システム構築費
- ・リスクアセスメント、ルート選定等の調査費 等

＜対象事業のイメージ＞

- ・定時定路線型の自動運転移動サービス
- ・域内の特定のポイント間で運行するデマンド型の自動運転サービス

想定プロジェクト

